

『Mind Charging』

第 235 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 3 月 13 日

カール・グスタフ・ユングの名言



ある人に合う靴も、別の人には窮屈なものである。
あらゆるケースに適用する人生の秘訣などない。

以前このコラムでも述べたことがあります、自分の物差し“だけ”で物事を見て判断すると他の人を衝突してしまうことがあります。もちろん自分の『軸』を持つことは重要ですが、持論が必ずしも正論ではないことや、様々な状況下で日々を過ごす私たちの人間関係として『自分と人は違う』ということを理解しておくことが重要だと考えます。そういう意味でも今回の言葉にある『人生の秘訣などない』ということを感じざるばかりです。

自分の考え方が“あらゆるケースに適用する”という人は存在しません。時には考え方を変えて適応するための努力を求められることもあります。矛盾に聞こえるかもしれませんが、自分の考えに自信を持つことと自分の考えが常に正解ではないという考えは常に“セット”であるべきだと私は考えます。自分の間違いに気づかされるきっかけは、他の誰かからの情報によるものが一番多いと推測されることから、今回の言葉にある『人生の秘訣』のひとつは“思いやりの心”が挙げられると思います。良い(平和な)時は上手に立ち回ることができますし、人も集まってきます。重要なのは、本当に困っている時や絶不調な時に、そばにいてくれる仲間がどれだけいるのかということです。誰にでも好不調の波はありますが、それを理解してあげる姿勢は大切ですが、常に理解してもらえるかどうかは“下ごしらえ”が重要だと考えます。

また、時代の流れやルールの変更についても似たようなことが言えると思います。これまでの感覚では通用しないことも出てくる中で、“やり辛さ”を感じることもあるでしょう。しかし、これについては窮屈だと感じて“仕方がない”ことであり、『あの頃は良かった』と思いつつも、自分の対応力を精一杯使っていく他ありません。

自分のことを理解してくれている人や理解しようとしてくれる人が増えるように普段のコミュニケーションが非常に大切であり、その中で様々な変化に対応しながら進んでいくことが人間形成に大きく役立つものと考えます。そういう意味では、自分の未来を快適で豊かなものにする努力に終わりはないということですね。(編集委員：入試広報室 鈴木)

カール・グスタフ・ユング(Carl Gustav Jung, 1875年7月26日 - 1961年6月6日)は、スイスの精神科医・心理学者。プロイラーに師事し深層心理について研究、分析心理学(ユング心理学)を創始した。(Wikipedia 参照)